

# 新年のご挨拶



代表取締役社長  
みお たいいちろう  
三尾 泰一郎さん

株式会社中央物産の皆さん、あけましておめでとうございます。2022年も精一杯力を尽くしてくださり、本当にありがとうございました。新しい年も、皆さんにとって素晴らしい1年となりますことを心からお祈り申し上げます。2023年の年頭にあたり、ご挨拶と今後の取り組みについてお伝えします。

## 指さし確認を忘れずに

2022年は安全対策を徹底した1年で、特に熱中症や新型コロナウイルス感染症の対策に関しては、毎月の朝礼でも注意喚起を続けました。作業場では使用する機械が古くなってきているため、**事故のリスクも増えています**。そこに対する取り組みについても注力しました。安全衛生委員会でも対策を検討してきましたが、決め手となる解決策は見つからないのが現状で、今後の課題です。

事故は、作業に慣れてきて油断が生まれると起こりやすくなります。未然に防止するためにも、**作業時の指さし確認を徹底**してください。2023年も引き続き、事故への対策を検討していきます。皆さんもぜひ、安全対策へのご協力をお願いいたします。

## 「致知」の効果を実感

人に優しい経営を目指すには、まず私たち自身が優しい心をもっていないと考えるべきと考えています。そうした思いから、2022年に新たな試みをスタートさせました。雑誌「致知」の内容について語る座談会「木鶏会」です。致知は人間学を学べる月刊誌で、心のあり方を考えるヒントがたくさん詰まっています。

これまでに読んできた記事のなかでも特に印象に残っているの

が、「壁をつくっているのは自分」という言葉。壁とはトラブルや不安材料を指し、その原因は実のところ自分にあると書いてあります。つくってしまった壁をどのように乗り越えていくべきか、記事を読み進めていくと答えが見えてくるのです。致知を読み終えたのちに座談会で皆さんと意見を交換すると、内容への理解がより深まります。

座談会に参加しているのはまだ一部の社員のみで、メンバーは40名ほど。月に1回、1時間の座談会を試しに実施してきました。少ない人数で始まった会ではありますが、コミュニケーションの活性化を実感しています。そこで、2022年10月からは購読数を増やしました。今は全社員へ致知が配布されています。今後は座談会の拡大も含め、さらなる活用を検討しています。

## チャレンジングな目標設定を

経営数字の計画と目標設定について振り返ってみると、2022年は初の試みがありました。かつてはトップダウンで設定していた目標を、事業部ごとに考えていただく**ボトムアップ式へと変更**したのです。

安定的な数字が目標として掲げられていたため、設定した目標はわずか3か月で達成できてしまいました。皆さんにはしっかりと実力が備わっていると確信しています。**失敗をしてもよいのでチャレンジ精神を忘れず**に取り組みましょう。2023年の挑戦にも期待しています。

## よりよい職場づくりを目指して

中央物産が2023年に取り組むのは、事故の起こらない職場づくり。抜本的な対策として、**工場内のレイアウト変更に向けたプロジェクト**を立ち上げます。もっと心地よく働きやすい環境となるよう、中長期的な改革を計画中です。よりよい職場をつくるには、皆さんの協力が欠かせません。「あれを改善してほしい」「ここがよくなればな」というご意見、ご提案がある方は、**遠慮なく声をあげてください**。改善のために動きます。



2023年もお客様を想い、喜んでいただける仕事を一緒に目指していきましょう。私も代表取締役として精一杯力を尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。皆さんの健康と活躍を祈念し、年頭のご挨拶といたします。